

第2章 地域社会を取り巻く状況

1 人口・世帯の状況

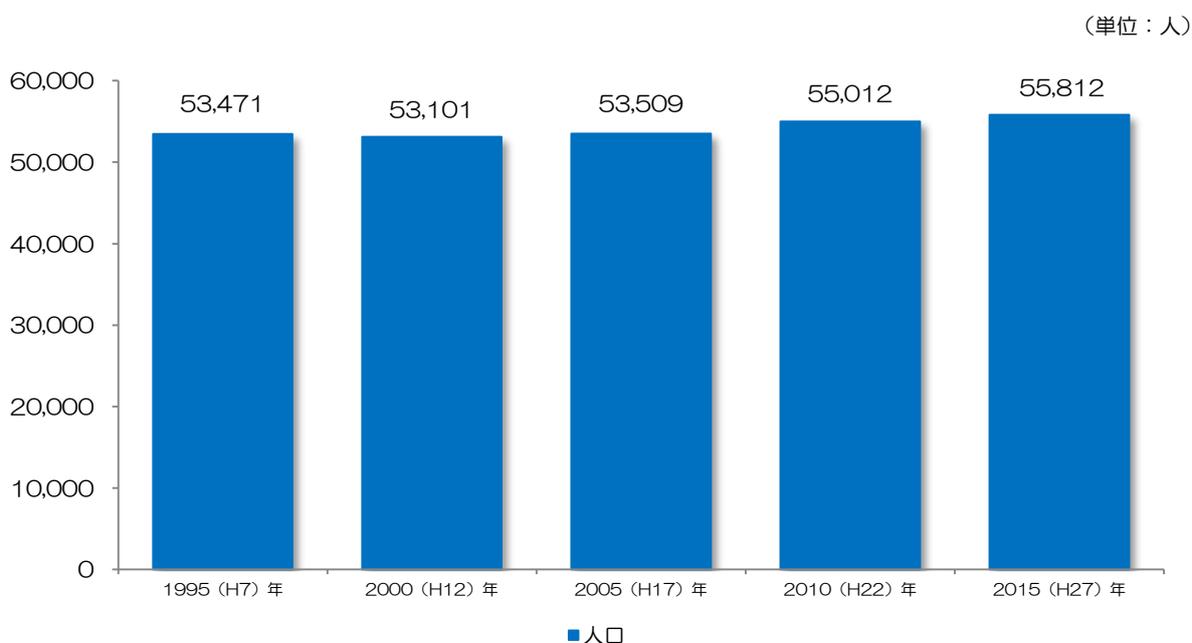
(1) 人口の推移（国勢調査）

本市の人口は微増傾向にあり、2015年国勢調査では55,812人となり、前回の2010年国勢調査に比べ、800人増加しました。15歳から64歳の生産年齢人口が減少傾向、65歳以上の老年人口が増加傾向にあります。

■人口の推移

	1995年 (H7年)	2000年 (H12年)	2005年 (H17年)	2010年 (H22年)	2015年 (H27年)
年少人口（0歳～14歳）	8,452人 15.8%	7,567人 14.3%	7,416人 13.9%	7,859人 14.3%	7,855人 14.1%
生産年齢人口（15歳～64歳）	36,105人 67.5%	35,156人 66.2%	34,206人 63.9%	33,294人 60.5%	31,598人 56.6%
老年人口（65歳以上）	8,914人 16.7%	10,378人 19.5%	11,867人 22.2%	13,790人 25.1%	15,875人 28.4%
総人口	53,471人	53,101人	53,509人	55,012人	55,812人

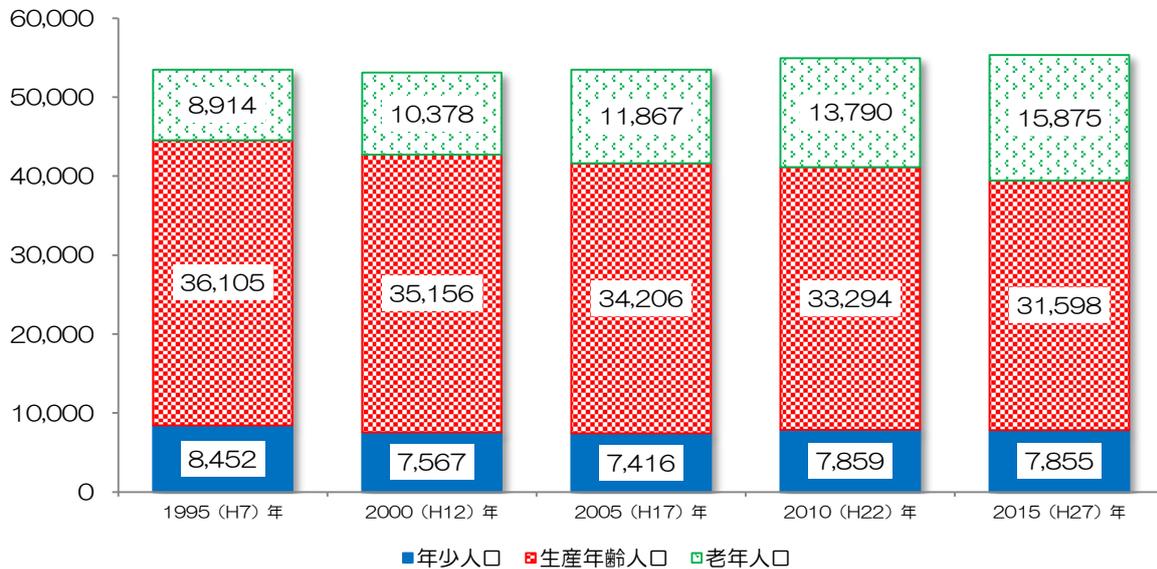
※総務省「国勢調査」、年齢3階層には年齢「不詳」が含まれないため合計と一致しない。



※総務省「国勢調査」、年齢3階層には年齢「不詳」が含まれないため合計と一致しない。

■年齢3階層別人口の推移

(単位：人)



※総務省「国勢調査」、年齢3階層には年齢「不詳」が含まれないため合計と一致しない。

(2) 人口の推移 (住民基本台帳)

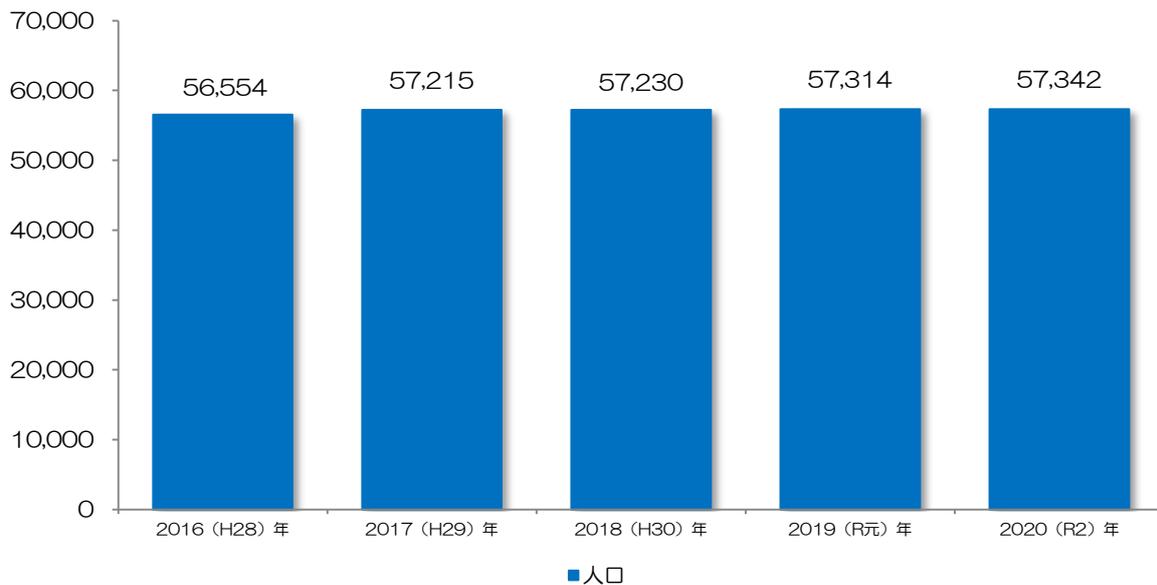
本市の人口は微増傾向が続いており、2020 (令和2) 年9月30日現在で人口は 57,342 人になりました。総人口に占める割合は、0歳～14歳の人口は14%前後、15歳～64歳の人口は57%前後、65歳以上の人口は29%前後で推移しています。

■人口の推移

	2016年 (H28年)	2017年 (H29年)	2018年 (H30年)	2019年 (R1年)	2020年 (R2年)
年少人口 (0歳～14歳)	7,931人 14.0%	8,006人 14.0%	7,977人 13.9%	7,993人 13.9%	7,978人 13.9%
生産年齢人口 (15歳～64歳)	32,340人 57.2%	32,664人 57.1%	32,615人 57.0%	32,610人 56.9%	32,649人 56.9%
老年人口 (65歳以上)	16,283人 28.8%	16,545人 28.9%	16,638人 29.1%	16,711人 29.2%	16,715人 29.1%
総人口	56,554人	57,215人	57,230人	57,314人	57,342人

※住民基本台帳、各年9月30日現在の人口、総人口に占める割合。

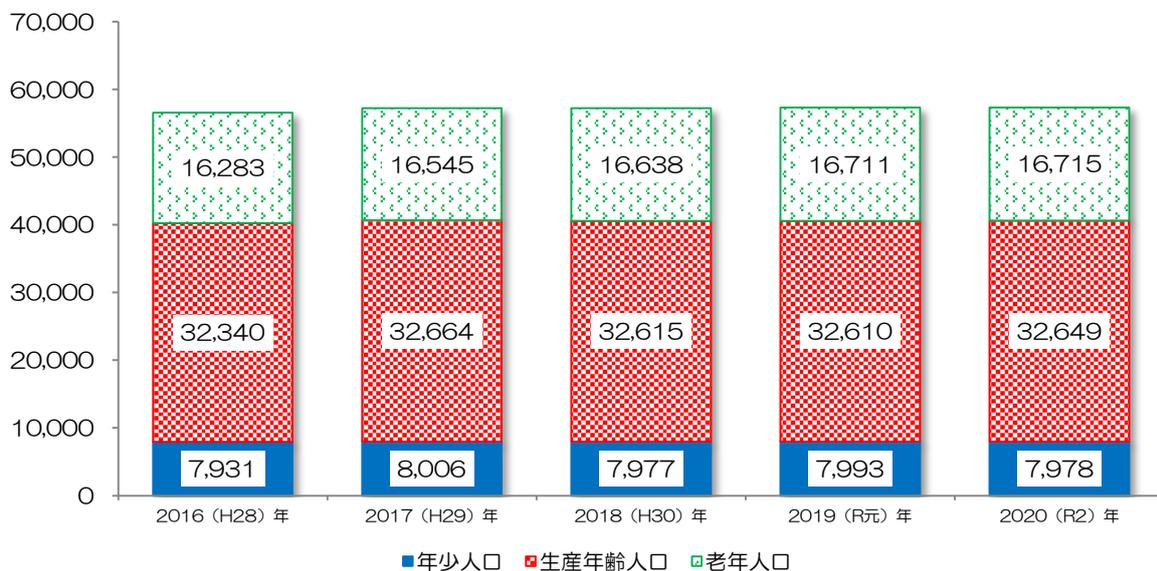
(単位：人)



※住民基本台帳、各年9月30日現在の人口。

■年齢3階層別人口の推移

(単位：人)



※住民基本台帳、各年9月30日現在の人口。

(3) 世帯の推移（国勢調査）

単独世帯、核家族世帯いずれの世帯も増加が続いています。

■世帯の推移

	2000年 (H12年)	2005年 (H17年)	2010年 (H22年)	2015年 (H27年)
世帯総数	20,101 世帯	21,127 世帯	22,653 世帯	23,757 世帯
うち単独世帯	4,309 世帯	5,041 世帯	6,285 世帯	7,357 世帯
うち核家族世帯	13,298 世帯	13,805 世帯	14,333 世帯	14,650 世帯

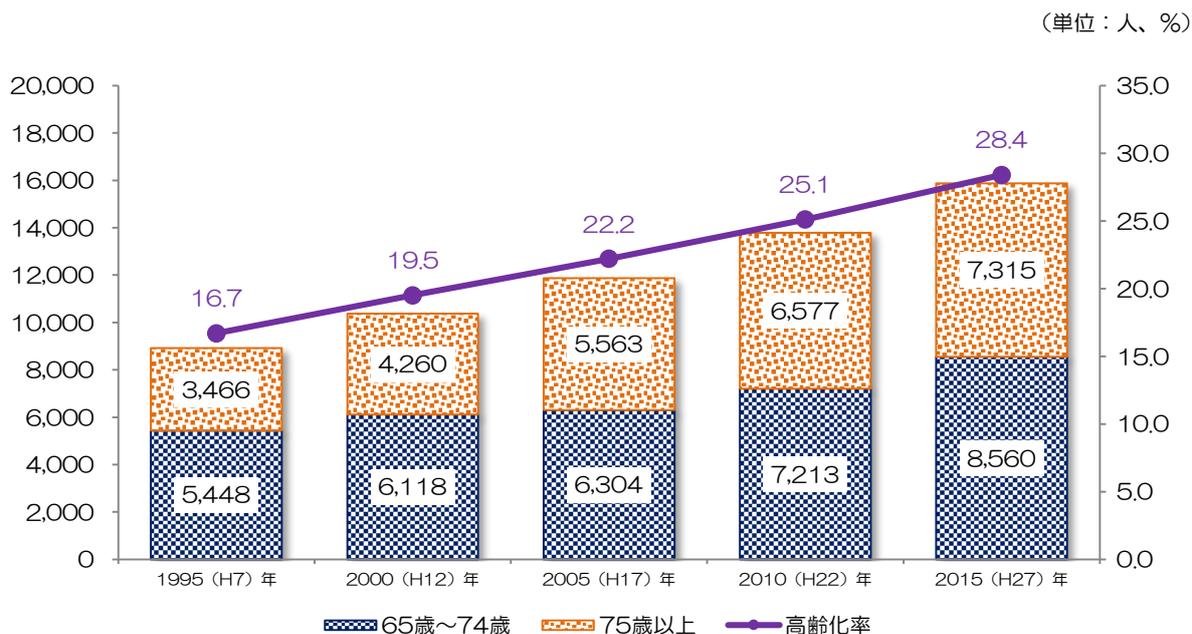
※総務省「国勢調査」より。

2 高齢者の状況

(1) 高齢者人口の推移

高齢者人口は増加を続けており、2015（平成 27）年に65歳以上の人は、15,875人、高齢化率は28.4%となりました。

■65歳～74歳と75歳以上の人口の推移



※総務省「国勢調査」より。

(2) 高齢者のいる世帯の推移

65歳以上の高齢単身者の高齢単身者世帯、夫65歳以上妻60歳以上の夫婦1組のみの世帯の高齢夫婦世帯、いずれの世帯においても増加が続いています。

■高齢者のいる世帯の推移

	2000年 (H12年)	2005年 (H17年)	2010年 (H22年)	2015年 (H27年)
高齢単身者世帯	1,533 世帯	1,953 世帯	2,457 世帯	2,924 世帯
高齢夫婦世帯	2,282 世帯	2,730 世帯	3,109 世帯	3,611 世帯

※総務省「国勢調査」より。

※高齢単身者世帯は65歳以上の高齢単身者、高齢夫婦世帯は夫65歳以上妻60歳以上の夫婦1組のみの世帯。

(3) 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数は、2016（平成28）年に2,936人でしたが2020（令和2）年に3,060人に増加しました。

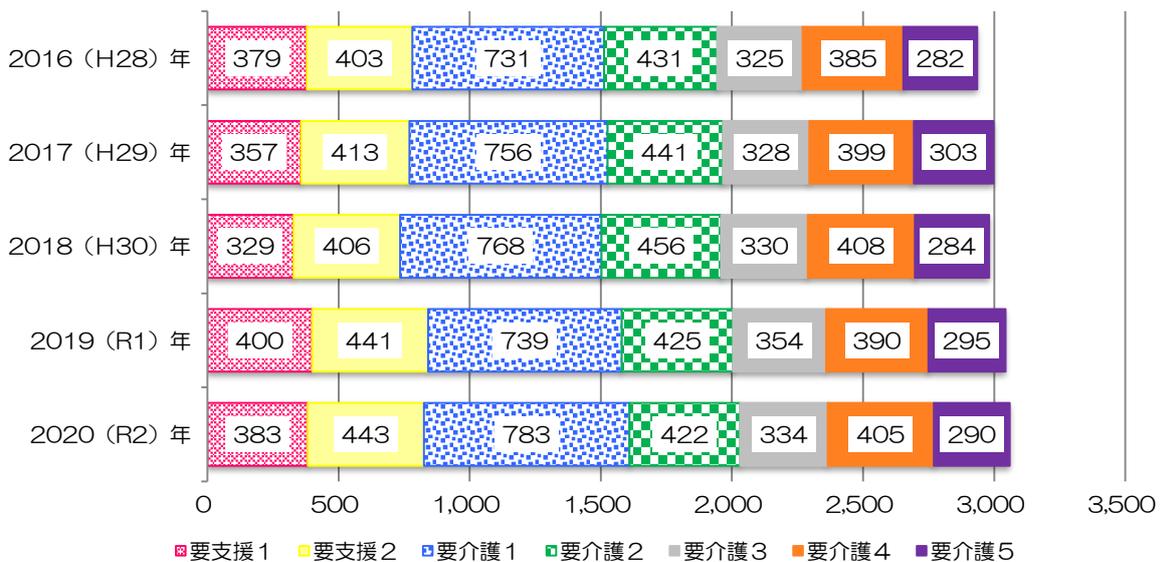
■ 要支援・要介護認定者数の推移

（単位：人）

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
2016（H28）年	379	403	731	431	325	385	282	2,936
2017（H29）年	357	413	756	441	328	399	303	2,997
2018（H30）年	329	406	768	456	330	408	284	2,981
2019（R1）年	400	441	739	425	354	390	295	3,044
2020（R2）年	383	443	783	422	334	405	290	3,060

※介護保険事業状況報告（3月分）より。

（単位：人）



※介護保険事業状況報告（3月分）より。

(4) 成年後見利用制度申立件数

	2015（H27）年度	2016（H28）年度	2017（H29）年度	2018（H30）年度	2019（R1）年度
市長申立件数	5件	3件	4件	3件	4件

3 障害者の状況

(1) 障害者手帳所持者

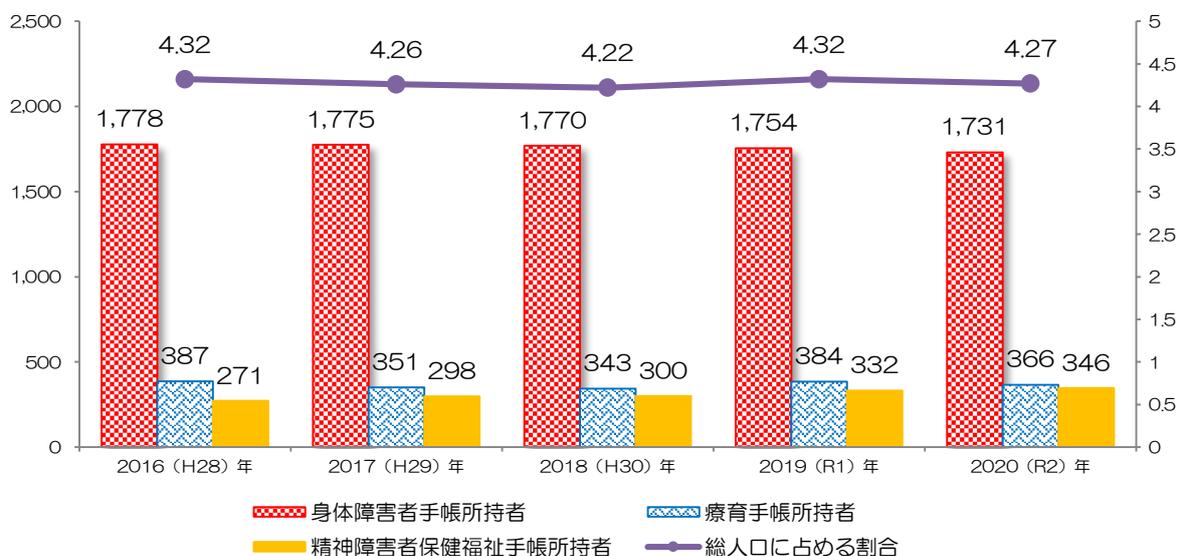
■障害者手帳所持者数の推移

(単位：人、%)

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	障害者手帳	総人口に 占める割合
2016 (H28) 年	1,778	387	271	2,436	4.32
2017 (H29) 年	1,775	351	298	2,424	4.26
2018 (H30) 年	1,770	343	300	2,413	4.22
2019 (R1) 年	1,754	384	332	2,470	4.32
2020 (R2) 年	1,731	366	346	2,443	4.27

※各年3月31日現在。

(単位：人、%)



(2) 成年後見利用制度申立件数

	2015 (H27) 年度	2016 (H28) 年度	2017 (H29) 年度	2018 (H30) 年度	2019 (R1) 年度
市長申立件数	0件	1件	0件	0件	0件

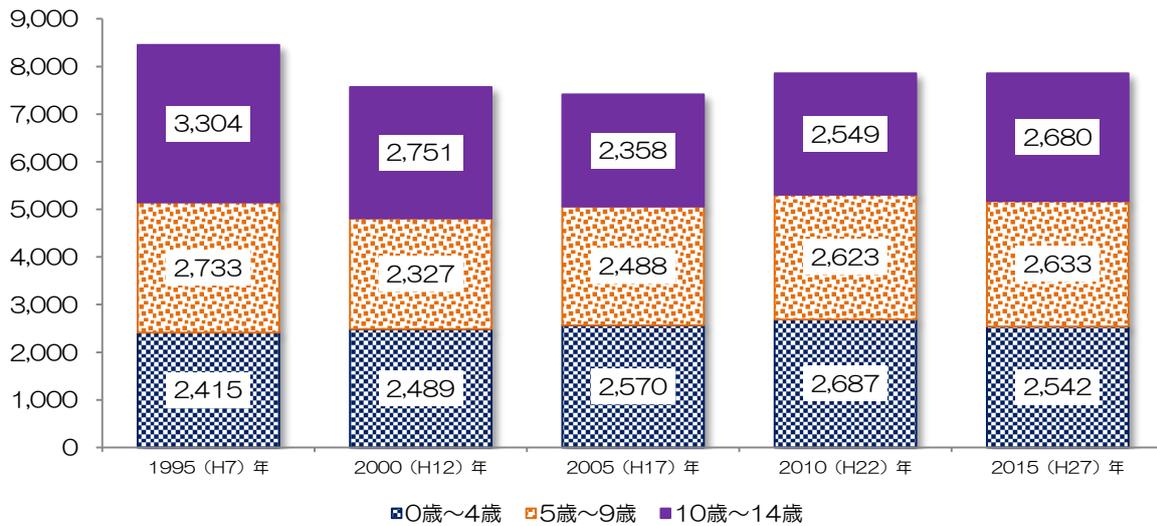
4 子どもの状況

(1) 子どもの状況

本市の2015(平成27)年の0～4歳人口は2,542人、5～9歳人口は2,633人、10～14歳人口は2,680人で、2010(平成22)年からほぼ横ばいで推移しています。

■ 14歳以下3区分別人口の推移

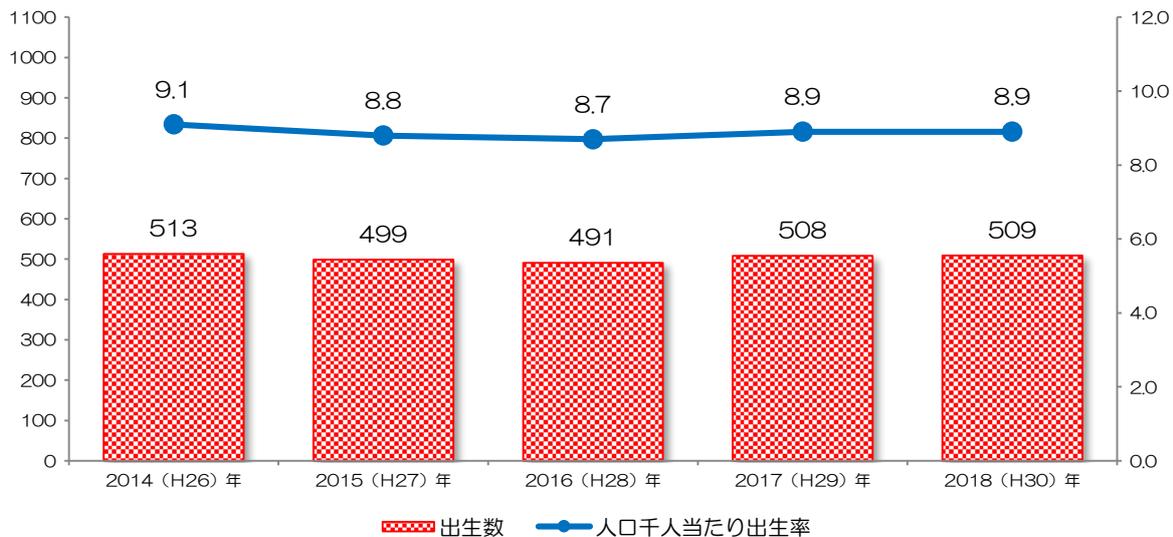
(単位：人)



※総務省「国勢調査」、年齢3階層には年齢「不詳」が含まれないため合計と一致しない。

■ 出生数などの推移

(単位：人、%)

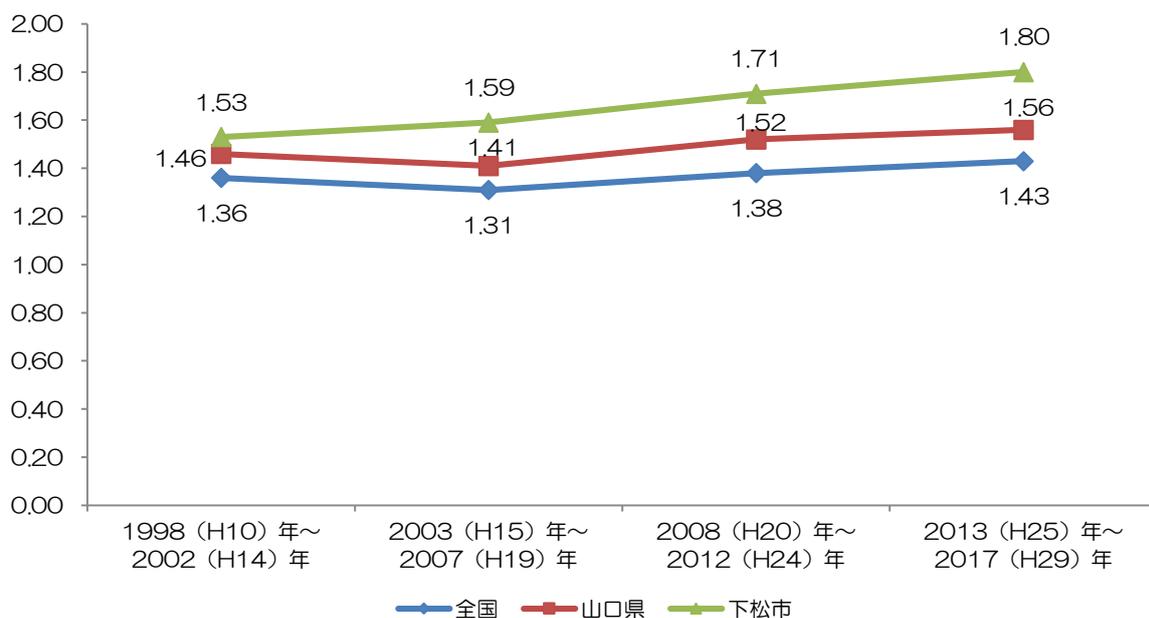


※第2期下松市子ども・子育て支援事業計画より。

(2) 合計特殊出生率（ベイズ推定値）の推移

全国及び山口県の合計特殊出生率（1人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子どもの数の平均を指す指標）は、微増傾向にあります。本市の合計特殊出生率は、全国及び山口県に比べると、相対的に比較的良好な水準で推移しています。

■合計特殊出生率の推移



※厚生労働省 人口動態保健所市区町村別統計。

※ベイズ推定値とは、市区町村等の標準化死亡比や合計特殊出生率の算出において、地域間比較や経年比較に耐えうる、より安定性の高い指標を求めめるため、ベイズ統計学の手法を用いることにより、出現数の少なさに起因する偶然変動の影響を減少させた数値です。

(3) 厚生労働省人口動態統計（確定数）における全国の出生数などの推移

2018（平成30）年、2019（令和元）年の厚生労働省人口動態統計（確定数）では、全国の出生数、合計特殊出生率は、減少、低下しています。

	2017（平成29）年	2018（平成30）年	2019（令和元）年
出生	946,146人	918,400人	865,239人
合計特殊出生率	1.43	1.42	1.36

5 生活保護の状況

(1) 生活保護被保護世帯数及び保護率の推移

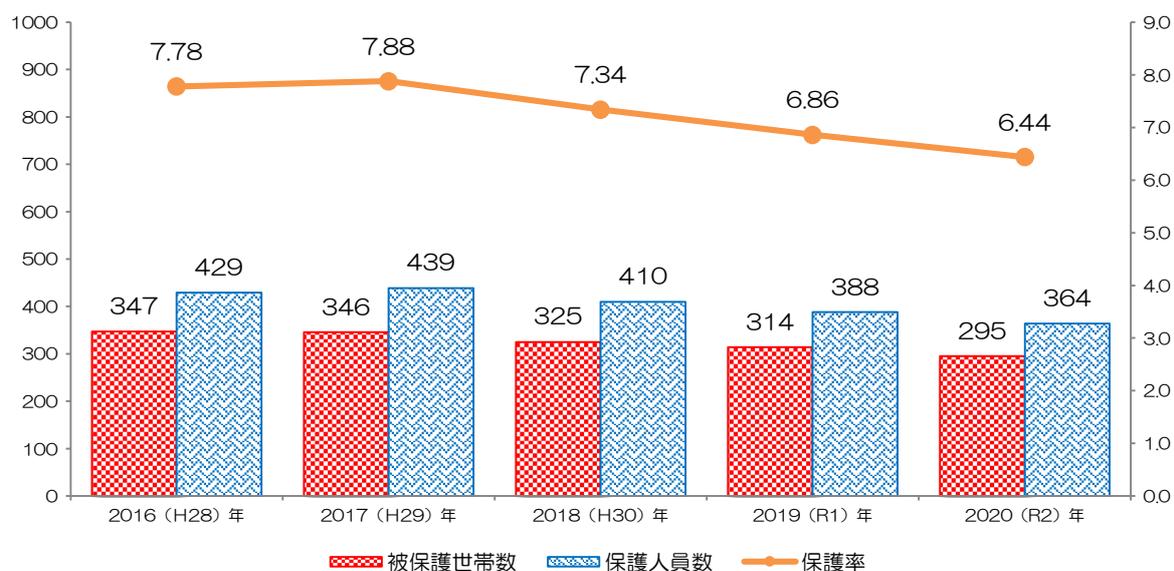
■生活保護被保護世帯数及び保護率の推移

(単位：世帯、人、‰)

	被保護世帯数	保護人員数	保護率
2016 (H28) 年	347	429	7.78
2017 (H29) 年	346	439	7.88
2018 (H30) 年	325	410	7.34
2019 (R1) 年	314	388	6.86
2020 (R2) 年	295	364	6.44

※福祉行政報告例より（各年3月31日現在）。

(単位：世帯、人、‰)



6 人口の推計

(1) 人口の推計

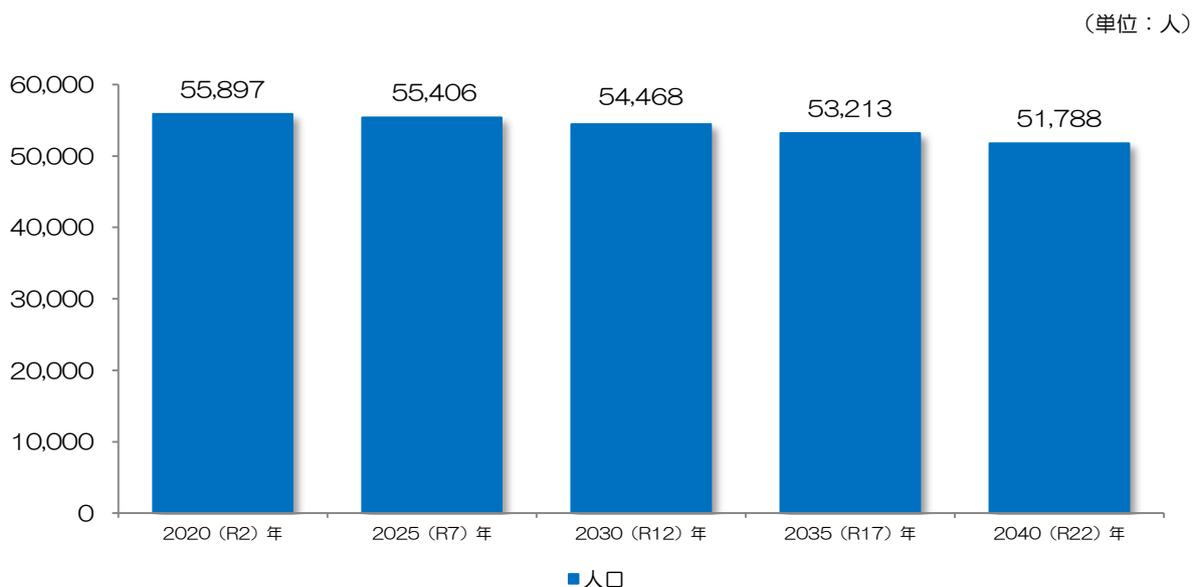
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」によると、2020(令和2)年以降の年齢3階層別人口は、次のように推計されています。

年少人口(0歳~14歳)は減少を続けます。生産年齢人口(15歳~64歳)は2025(令和7)年を境に減少に転じます。老年人口(65歳以上)は減少を続けますが、2035(令和17)年を境に増加に転じ、2040(令和22)年にかけて770人増加すると予測されています。

■人口の推計

	2020年 (R2年)	2025年 (R7年)	2030年 (R12年)	2035年 (R17年)	2040年 (R22年)
年少人口(0歳~14歳)	7,694人 13.8%	7,298人 13.2%	6,953人 12.8%	6,609人 12.4%	6,397人 12.4%
生産年齢人口(15歳~64歳)	31,439人 56.2%	31,485人 56.8%	31,392人 57.6%	30,630人 57.6%	28,647人 55.3%
老年人口(65歳以上)	16,764人 30.0%	16,623人 30.0%	16,123人 29.6%	15,974人 30.0%	16,744人 32.3%
総人口	55,897人	55,406人	54,468人	53,213人	51,788人

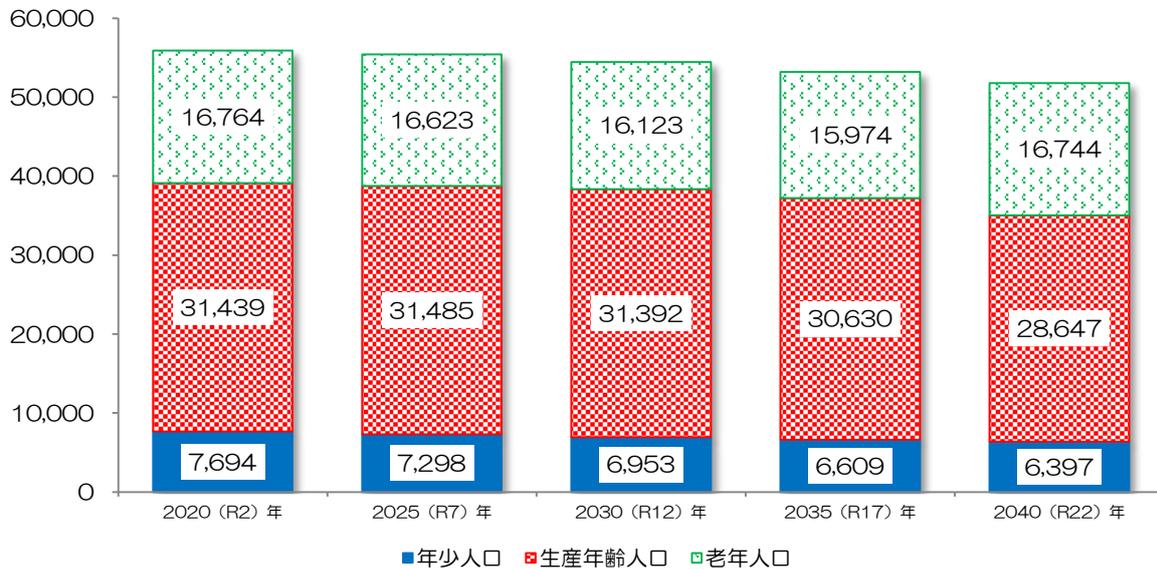
※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より。



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」より。

■年齢3階層別人口の推移

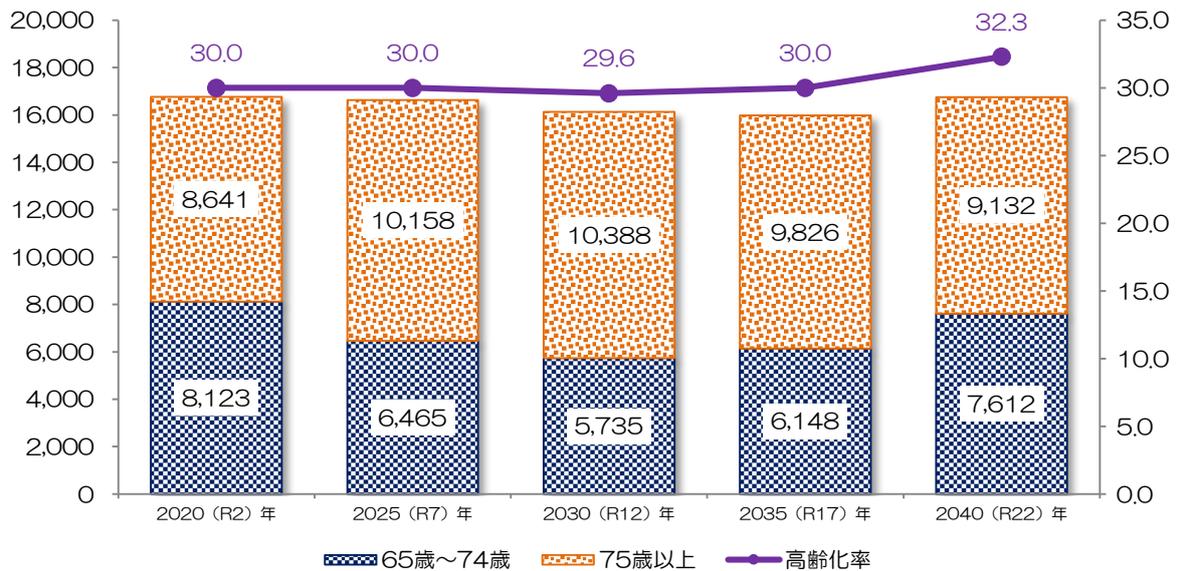
(単位：人)



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」より。

■65歳～74歳と75歳以上の人口の推移

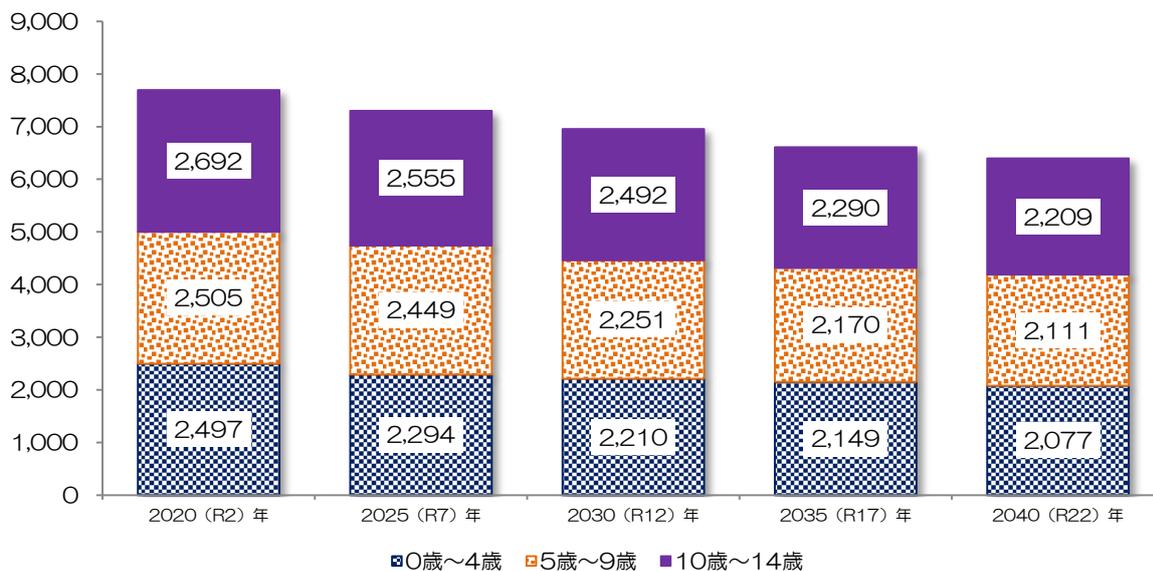
(単位：人、%)



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」より。

■ 14歳以下3区分別人口の推移

(単位：人)



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より。